校長室だより

三刀屋高等学校・掛合分校

第１９号

令和３年８月２３日

絆

○始業式講話抜粋 「3K(感動･感謝･気遣い)」 日野原先生著書⇒

短い夏休みが終わり、2学期が始まりました。節目としての心と頭の整理が十分にできましたでしょうか。気持ちを引き締めて、2学期をスタートしてほしいと思います。今日は、私の印象に残っている言葉を2つ紹介します。

一つ目は、ある数学の先生の言葉、

「1 の 365 乗は 1　0.99 の 365 乗は 0.026　1.01 の 365 乗は 37.78」です。

普通のことを 365 日やっても同じ。ほんの少しなまけ続けると大きな損失になり、ほんの少しのがんばりを続けると大きな成果がある、という事でしょうか。もちろん日々こつこつと続けることは大切です。言われたことをきちんとやり切ることも当たり前のことです。日々、少し工夫して、少し自分の殻を破って努力すると大きな違いとなるということです。主体的であることも大事。それが、合い言葉である**「小さな挑戦」**に込めた意味の一つです。

二つ目の言葉は、日野原重明先生の言葉です。先生は 105 歳で亡くなるまで生涯現役の内科医として診療にあたられただけでなく、100 歳を過ぎても年間 100 回以上の講演や小学校で「いのちの授業」をされ、多くの本も執筆されました。ここではある小学校での「いのちの授業」での言葉を紹介します。

> 命はどこにありますか？ 心臓ではありません。 心臓は大切な臓器だけど血液を送るポンプで命ではありません。 命は感じるもので、目には見えません。 目に見えないもので大切なものはたくさんあります。空気、酸素、愛情、思いやり･･･本当に大切なものは目に見えません。 命は君たちが持っている時間です。 死んだら自分で使える時間もなくなってしまう。 一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えながら生きてほしい。 さらに、その命を**自分以外の何かのために使う**ことを学んでほしい。

この言葉を聞いて何を感じ、何を思いましたか。

自分の命、与えられた時間を大切にしているかあらためて考えてみてください。

そして自分が自分以外の命、時間のために何ができるかも併せて考えてみてください。それは小さな思いやり、気遣いでもいいのです。気持ちが大事です。それが**「小さな善行」**に込めた意味の一つでもあります。

人は、誇り高くないと人に助けを求めないと聞いたことがあります。誇り高いというのは、弱い部分がないという意味ではなく、**「確かな(大きな)志」**を胸に、弱い部分を隠さず、そのことを課題として努力できることだと思っています。弱い部分を隠すうちはそのことを自分自身が受け入れていないので、努力をおこたりがちになり、また自己中心的にもなりがちです。できないことを人のせいにすることもあります。そこでは感謝や気遣いの気持ちが薄れがちです。ちなみに、弱い部分を各自が認識し、安心して見せ合える集団では、互いが励まし助け合うので、いじめもないと思います。それはチームとしても、個人としても成長する集団です。

池江選手の復帰、オリンピックでの泳ぎに感動したことは記憶に新しいところです。池江選手が闘病のつらさを発信できたのは、彼女には確かで大きな志があったからだと思っています。自暴自棄にならず、闘い努力するとともに、助けや支援を素直に求められる人だからだと思います。活躍する選手ほど、インタビューで感謝の言葉を述べます。出した結果が、決して自分だけの力や努力で達成できたものではないと心から思っているからだと思います。オリンピックの野球の日本代表は、観客のいないスタンドに向かって並んで一礼しました。

感動、感謝、気遣いの３Kはセットのような気がします。

2学期は、勉強や部活動、学校行事などに集中して取り組むことができる学期です。全員が3Kと三高(掛高)プライドを胸に全力で走りましょう！　皆さんの飛躍と成長を願って始業式の話とします。